

<祈りのすすめ>

「また、シロアムの塔が倒れたためにおし殺されたあの十八人は、エルサレムの他の住民以上に罪の負債があったと思うか。あなたがたに言うが、そうではない。あなたがたも悔い改めなければ、みな同じように滅びるであろう」。
(ルカによる福音書13章4-5節)

10月18日にアフガニスタン東部のナガラー州にあるモスクで起きた爆発事件で、私のもとで学んでいる留学生の知人が何人か犠牲になりました。そのうちの一人は結婚式をあげたばかりの若者で、残された新妻は1週間前に掛けてもらったばかりのヴェールを外し、亡夫の棺に収めたそうです。2000年3月8日の地下鉄日比谷線事故で親しかった小平教会の藤井新也長老を失った時、私は「なぜですか」と神に問いたい思いに駆られました。冒頭の聖書箇所直前、「ピラトがガリラヤ人たちの血を流し、それを彼らの犠牲の血に混ぜた」事件を知った人々が主イエスに訴えたときも、同じ思いではなかったかと想像します。

突然の災害や事故、病などが自分や自分に近い人の上に降りかかると、私たちは「理不尽ではないですか」と不遜にも神のなさりように不満を言い表わしたい衝動に駆られます。度重なる台風や地震の被害、原発事故、辺野古の基地建設、在日外国人に対するあからさまな差別、元「慰安婦」や徴用工、BC級戦犯にされた旧植民地の人々などの被害を思うたびに、また本来責任を負うべき人々がこのうのうと生きている現実を目の当たりにするたびに、なぜこのような理不尽がまかり通っているのかと、嘆かずにおられないのが私たちです。

しかし、主は、訴えた人々に対して「あなたがたも悔い改めなければ、みな同じように滅びるであろう」と言われました。これは容赦ない

恐るべき宣告だと思います。私たちは、神に不平を述べるどころか、みな、罪の負債によってたちどころに滅び失せるにこそ相応しい存在であり、生かされている奇跡的な恵みにこそ感謝しなければなりません。しかも、私たちの悔い改めは不完全で、罪の赦しを得た後もなお、神のみ旨に逆らってやまず、やがて次々と滅びの淵に埋没していくほかないのです。

しかし、主は、私たちが罪のままに滅び行くのを放置なさらず、十字架の贖いによって、罪に対する勝利と再生の希望を私たちに与えて下さいました。キリストによるこの救いのみわざがほかならぬ私にこそ適用されているという事実を、説教と聖晩餐を通して、群れの中で確認することができている私たちは幸いです。私たちは、御子によって成就した神の永遠のご計画に与っているが故に、恐怖や不安に打ちのめされることなく前進することができるのです。

私たちは、この世の理不尽に直面するとき、主の御言葉に従って、つねに悔い改めを新たにしなければなりません。と同時に、そのような理不尽に苦しむ人々のために祈り、仕えていくものにならなければなりません。それは神の御子でありながら罪人である私のために十字架上で死なれるという究極の理不尽を忍びたもうた主に対する私たちの応答です。私たちの靖国闘争も、悔い改めのわざでありつつ、主にあって新たにされたものとしての喜ばしい証しのわざにほかなりません。

<祈り> 神様、罪と不正によって御怒りを募らせているこの世において、キリストの救いの御業が照り輝くようにして下さい。主の民が、罪赦されているものとしての確信をもって喜ばしく歩み、虐げられている弱き人々に、終わりの日の勝利を伝えていくことができるよう導いて下さい。

(小塩海平 東京告白教会長老、大会靖国神社問題特別委員会委員)

新シリーズ『いま なぜ 大嘗祭か』を読みなおす (10)

芳賀繁浩 (豊島北教会牧師)

Q10 かつて、キリスト者にとって「天皇」のことでどのような問題が起きましたか？

A 「天皇」を中心とした国家体制を整えつつあった明治政府は、1889年に「大日本帝国憲法」を定め、さらに1890年には「教育勅語」を發布しました。この勅語は、教育においても「天皇」を中心とした国家主義を徹底するために出されたもので、1945年(敗戦)まで、教育の原点を示すものとして遵守(絶対に従い守ること)されていました。1891年の正月に、東京の第一高等中学校(現東京大学)で、教育勅語の奉読式が行われたときに、同校の教員・生徒にこれを拝礼することが求められました。同校の教員であったキリスト者内村鑑三は、それを宗教的に拝礼が求められたと考えて、「勅語」に向かって拝礼することをためらいました。この出来事は「内村鑑三不敬事件」と呼ばれて、人々の非難を浴び、後日、内村鑑三は、敬意を表することに同意し、代理を立てて代拝をさせましたが、結局その職を追われることになりました。

この事件がきっかけとなって、キリスト教は日本の「国体」に合わないということが言われ、「教育と宗教の衝突事件」として多くの人の関心を引き、論争が行われました。「キリスト教は日本国家のためにならない」とする批判に対し、キリスト者の側から、「お国のためになるキリスト教」という姿勢の反論があらわれてきました。国家がナショナリズムを強調し、日清・日露と戦争を重ねるに従い、キリスト教会は、その国家体制に協力するような傾向を強めていきました。

また、国家神道体制のもとで、「神社は宗教にあらず」として、皇室の祖先である〔とされている〕天照大神をまつる伊勢神宮などに参拝することを求められたときもこれを拒否することができず、妥協してしまいました。さらには、朝鮮半島のキリスト者たちにも、「神社参拝は国民としての儀礼であって神社は宗教ではない、だから偶像崇拝にはあたらぬのだ」と説得する役割を果たしました。

さらに国民儀礼という名で宮城遙拝をもとめられたとき、多くの教会は礼拝に先立って、真の神礼拝と天皇礼拝が矛盾しないかのように行っていました。そしてついには「お国のために犠牲を負うこと」が最も信仰的な態度であると説いて、アジア諸国の隣人に対する愛を忘れたような聖書の解き明かしをする者まで現れてしまいました。

Q10-1. なぜ、教会は聖書の教えに背いて天皇を神として拝んでしまったのでしょうか。

A. 聖書の教えを正しく聞けなかったからです。そのために国家に対して正しい姿勢を取ることができず、天皇を神とし主権者とする大日本帝国と共に歩むという罪を犯してしまいました。

1890年12月、日本基督一致教会は第6回大会を開き、信仰告白を制定し、憲法・規則を改正し、教会を「日本基督教会」に改めました。そしてそれは、前年に發布された「大日本帝国憲法」に基づいて同年11月25日に招集された第1回帝国議会との同時開催を念頭においたものでした。

『帝国議会の創設』は、天皇の万世一系と神聖がうたわれた『大日本帝国憲法』によるものであり、その第一通常議会招集直前には『教育勅語』が發布された。「近代日本の形成の節目となる出来事に合わせて教会の重要なことを決定したのは、この時こそは時代における近代化への国民生

活と文化形成に対して教会の独自の責任を果たすために教会を堅固・強力にしようとしたということに他ならない。同時にそれによって、日本基督教会が時代の風潮に沿って歩むことになることは否定できない(『日本キリスト教会 50年史』55頁)とあるように、私たち日本キリスト教会がその歴史を受け継いでいる日本基督教会は、聖書にまさって時代の風潮を読もうとする過ちと、神に喜ばれるよりも人に喜ばれようとする弱さを持っていました。もちろんそこには、時と所とを共にする人々に福音を宣べ伝えようとする熱い思いがあったことは確かです。けれども、「日本人キリスト者が、自分たちの教会と社会の実情にふさわしく信仰を言い表し、その下に一つの群れとして立ちとうとした」(植村正久)まさにそのとき、教会は後に「日本教徒キリスト派」(山本七平)と揶揄されてしまうような存在へと変質を始めてしまったのです。

大嘗祭とはどういうものか

川越弘（大会靖国神社問題特別委員、沖縄伝道所牧師）

10月22日、皇居において、各国の元首や王族・政府高官・三権の長・閣僚・知事・各界の代表ら200人が参列する中で、天皇徳仁（なるひと）は、「高御座」（たかみくら）という玉座から、参列者を下にして「お言葉」を述べ、「国民の代表」である内閣総理大臣が天皇を仰ぎ見るように寿詞（よごと＝臣下が天皇に奏上する祝賀の言葉）をのべて万歳三唱をしました。ここに国家の「主権者は誰か」という深刻な疑念をもたらしています。

さらに、皇位継承の法的・政治的手続きが完了したにもかかわらず、11月14日夕方から翌15日未明の9時間をかけて、大嘗祭が行われます。なぜ行う必要があるのか。そこに宮中祭祀の最大行事・大嘗祭の本質が潜んでいるからです。

政府は大嘗祭について、1989年の閣議口頭了解したものを踏襲すると、2018年4月3日日に閣議口頭了解しました。そこでは「天皇が即位の後、大嘗宮において、新穀を皇祖及び天神地祇にお供えし、自らお召し上がりになり、皇祖及び天神地祇に安寧と五穀豊穡などを感謝されると共に、国家・国民のために安寧と五穀豊穡などを祈念される儀式である。…その宗教の態様において、国がその内容に立ち入ることになじまない性格の儀式である」とし、宮内庁幹部が大嘗祭における〈秘儀とする〉存在と内容を、国民の前に明らかにしておりません。しかし、戦時中の国民学校教科書に「これこそ大神（天照大御神）と天皇とが御一体になりあそばす御神事であって、わが大日本が神の国であることを明らかにするものである」と明記されており、その大嘗祭と異なる儀式を行うことは考えられません。

この秘密裏に行われる大嘗祭の実態は、研究者によると、

宮中三殿（賢所…天照大神、皇霊殿…歴代の天皇皇后の霊、神殿…八百万の神を祀る）の前庭に

一世一代の祭儀として大嘗祭が行われます。東を悠紀（ゆき）、西を主基（すき）と称し、そこで交互に儀式を行う。天皇は伊勢神宮に向けて用意された新穀のご飯と魚、野菜、果実・塩・酒・水などを、天照大御神・歴代天皇・八百万の神々に差し出し、その後、その御飯とおかずと酒を一品ずつ時間かけて食事をし、天照大御神の霊と共に寝ることによって、天皇は霊威を受けるといふ神人共食寝の儀式を行う、とされています。

これこそが天照大御神と天皇が一体となる最大の儀式です。そしてこの天皇が、五穀豊穡や国家安寧を祈るのです。大嘗祭とは、天皇が即位の礼の後に初めて行う新嘗祭のことで、新嘗祭を毎年受けることによって、天皇の神格化を積み重ねて行くというのです。

大嘗祭は、アニミズム・シャーマニズム・死者礼拝・陰陽道・習合した仏教・神道・民族宗教・儒教・道教などの要素が混在している混合宗教であり、呪術的・迷信的要素を色濃く残しております。

全体として大嘗祭は、大きく二分されます。

1. 天皇が天照大御神と一体になる儀礼。
2. 宮中における天皇と群臣の饗宴を行う。

2は、新天皇に対する服属の儀式であり、そこでは悠紀（東日本）・主基（西日本）の両国から献上された貢物が分配されます。悠紀・主基の両国は天皇の統治する日本国の象徴であり、新しい天皇とそれに仕える臣下としての国民の秩序を確定するというのです。

皇位継承式典関係予算については、内閣府・宮内庁・皇室費（大嘗祭関係・即位礼正殿の儀）・皇室費・皇位継承儀式関係費・宮内庁費（皇室活動）・警察庁（警備）・外務省（外国賓客滞在経費）・防衛省（不測事態対処、儀仗等実施経費）等、計160億8500万円を使用する予定です。

<ヤスクニ関連ニュース> *は報告者（古賀）コメント

○ 「靖国神社参拝した沖縄担当相、私人を強調『素直な気持ちで』」

靖国神社を参拝した衛藤晟一沖縄担当相は17日、沖縄タイムスなどの取材に私人としての参拝を強調した。地上戦で多くの住民が巻き込まれた沖縄戦の遺族の中には、望んでいないにもかかわらず親族が「戦争協力者」として靖国に祀（まつ）られ、国会議員の参拝は精神的苦痛などとする声がある。衛藤氏はそういった感情に対し「個人でのお参りだ。国のために亡くなった日本中の軍人軍属の方を、素直な気持ちでお参りした」と述べるにとどめた。（沖縄タイムス：10、18）

* 祀ってほしくない人々は公人に参拝されて二重の苦痛を受ける。歴史の事実を無視した「素直な気持ち」の押しつけは三重の苦痛である。

○ 「外国人幼稚園の除外撤回を 幼保無償化、議員も要求」

今月開始の幼児教育・保育の無償化措置の対象から「各種学校」に分類される外国人学校が外された問題で、排除された朝鮮学校幼稚園やインターナショナルスクールの関係者が18日、東京都千代田区の衆院第一議員会館で集会を開き、排除は不当な差別だとして撤回を求めた。・・・東京都内の朝鮮学校幼稚部に子が通う宋恵淑・保護者連絡会代表は「政府は各種学校の幼稚園に通う園児の規模を把握しながら、無償化対象に含めるかどうかの議論もしていない。子どもの人権を考える視点が抜け落ちている」と政府方針を批判した。（共同通信：10、18）

* 無償化から排除された各種学校の幼稚園は88校（朝鮮学校幼稚園40校、他の外国人学校幼稚園48校）にのぼる。他にも認可外施設には高いハードルが設定されて、キリスト教関係の幼児教育・保育にも存続の困難が生じていると聞く。朝鮮高校を無償化から除外してきた

差別がさらに拡大され、政府の権力的介入が強化されている。他民族・国籍差別排外主義は靖国・国粋主義と表裏一体である。罪は、具体的な枠組み（民族や国籍、思想・信条など）の中で人間破壊に誘導する。

○ 「沖縄県の訴え門前払い 那覇高裁『国の関与』取り消し訴訟」

沖縄県名護市辺野古の新基地建設を巡り、沖縄県の埋め立て承認撤回を取り消した国土交通省の採決を「違法な国の関与」として、県が国を相手に起こした「国の関与」取り消し訴訟の判決が23日、福岡高裁那覇支部であった。大久保正道裁判長は訴えは不適法として却下した。辺野古を巡る県と国の訴訟で、玉城デニー知事の就任後初めてとなった判決は、入り口論で退けられた形だ。玉城知事はこれまでの裁判で、沖縄防衛局が行政不服審査法に基づき「私人の立場」で審査請求し、同じ内閣の一員の国交相が埋め立て撤回を取り消したことを批判。「国が一方向的に地方公共団体の決定を覆せる手法が認められれば、真の地方自治は保障されない」などと訴え、裁判所に地方自治法の趣旨にのっとった判断を求めていた。（沖縄タイムス：10、23）

* 強行政権追従不当判決。

○ 「愛知県、不服申し出へ 補助不交付」

国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2019」の補助金全額不交付問題をめぐり、芸術祭実行委員会会長の村大秀章・愛知県知事は23日、文化庁に、補助金適正化法に基づき不服を申し出ることを明らかにした。国は愛知県の手続きの不備を不交付理由とするが、大村氏は「審査対象でなかった事項を後付けで問題とした。違法だ」と述べた。・・・（朝日：10、24）

* 文化庁や河村名古屋市長は、「文化芸術基本法」の「芸術家の自主性や創造性を尊重しよう」との趣旨に違反して内容に口出ししている。

<編集後記> 天皇即位儀礼と自衛隊イラン派遣検討発表とを抱き合わせた狡猾な政治的意図/安倍首相は「壽言」で「文化が生まれ育つ時代を創り上げていく」と文化への介入を明言。余計なお世話はさらに増幅する。（K生）